

# 学習の手引き

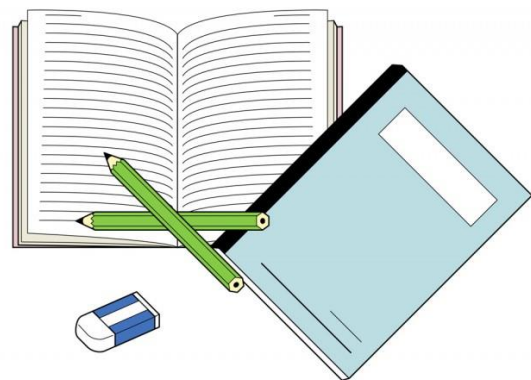


輪之内町立輪之内中学校

# 目次

## 〈 学習の手引き 〉

(1) はじめに	.....	1
(2) 国語科	.....	2
(3) 社会科	.....	4
(4) 数学科	.....	6
(5) 理科	.....	8
(6) 音楽科	.....	10
(7) 美術科	.....	12
(8) 保健体育科	.....	14
(9) 技術・家庭科	.....	16
(10) 英語科	.....	18



## はじめに

学校で学ぶことは、これから生きていくために必要なことばかりです。しかし、学習して得られた知識がすぐに生活に生きて働くことばかりではありません。学習の過程で身に付けた「ものの見方、考え方、感じ方」などが大きく働き、知識が実生活で役に立つものとなります。毎日の授業や家庭学習で身に付



けた力は、生活の中で必ず生きる力となります。仲間と共に学び合い、考えを深め合い、考える力や表現する力を高めていくとともに、知識や技能を身に付けていきましょう。

学力を向上させるために大切なことは、「自ら学ぶ」という努力を重ねることです。これが輪之内中学校で目指す「ひとりだちのできる生徒」につながります。戦国武将の武田信玄が残した言葉の中に「一生懸命だと知恵がでる。中途半端だと愚痴がでる。いい加減だと言いつけが出る。」という言葉があります。将来の自分を思い描きながら、目の前にある学習内容に対して一生懸命に立ち向かいましょう。自分の限界をつくらず、最大限の努力を続けることが人生の基礎を築くこととなります。

この「学習の手引き」は、みなさんが輪之内中学校での学習を充実させ、学ぶ喜びや充実感を味わうことができるように作成しました。各教科で大切にしたい学び方や授業の進め方、家庭学習の方法など、教科担当の先生方からのアドバイスを掲載し、目指す姿や評価の方法についても説明してあります。毎日の授業姿勢や家庭学習への取り組み方など、自分の姿を振り返り、迷った時などに有効に活用してください。

だれもが「分かるようになりたい。できるようになりたい。よくなりたい。」と願っています。自分自身の向上のために、この学習の手引きを有効に活用して、学習に役立ててほしいと思います。

# 国語科

## 1 国語科を学ぶ目的

幼い頃から慣れ親しんできた「国語」は、日本人にとって誇るべき言語の教科です。そして、すべての教科の基本ともなる教科です。また、社会生活に生きて働く大切な言語を学びます。言葉を正しく理解し、表現することが私たちの思考や心を豊かにし、温かい人間関係を築くことにつながります。授業での様々な言語活動を通して、仲間と伝え合う力を一層高めていくことを目指します。

そこで、教科書にある様々な教材の作品に表現された言葉の魅力を考えたり、表現されていない部分に込められた意味や思いを推し量ったりすることを通して、確かに理解する力と豊かに表現する力を付けていきましょう。また、人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合ったり、伝統的な言語文化に触れ、現代とのつながりを考えたりする活動を通して、言葉の奥深さを感じ、言葉に対する感覚を豊かにしていきましょう。

## 2 学習内容

文章の形態	第1学年	第2学年	第3学年
<b>文学的文章</b> ・小説、随筆など <b>説明的文章</b> ・論説、説明、随筆など	・文脈の中の語句の意味を的確にとらえ、場面の展開や登場人物の描写に注意して読む。 ・文章の中心、事実と意見を読み分け、要旨をとらえたり、要約したりする。	・文章中の表現描写から、登場人物の言動の意味を考えて読む。 ・文章全体と部分との関係、例示や描写の効果を考えてながら理解して読む。	・筆者の書きぶりの特徴を読む。 ★批評文を書く。 ・論理の展開の仕方をとらえて読む。
<b>考えの形成・読書</b>	・根拠を明確にし、自分の知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。 ・文章を読み比べるなどして、作品の構成や展開、表現の仕方について評価する。 ・目的に応じて本や文章を読み、知識や見聞を広める。		
<b>詩、短歌、俳句</b> など	・いろいろな種類の詩に触れ、音読しながら読み味わう。	・詩や短歌を読み味わい、内容や表現の仕方を交流し合う。	・語句の効果的な使い方や表現の工夫を読み味わう。
★作者の表現方法に学んだことを生かし、詩や短歌、俳句などを創作する。			
<b>古典</b> ・古文、和歌、漢文など	・古典の様々な作品を積極的に読む。 ・文語のきまりや訓読の仕方を知り、リズムを味わいながら古文や漢文を読み味わう。	・古典の世界を楽しみながら、作品の特徴を生かして朗読する。 ・いにしえの人々のものの見方をとらえる。	・歴史的背景を感じながら古典に親しむ。 ・古典の一節を引用するなどして、文章を書く。
★古の人々の生活や考え方に興味をもち、古典に関連する図書の本をたくさん読む。			
<b>文法、言葉、漢字</b> など	・漢字の特徴をとらえ、そのよさや効果的な使い方を理解し、日常生活で積極的に活用する。 ・文法のきまりを理解し、正しい日本語を書いたり話したりする。 ・語句の意味を的確にとらえたり、漢字を正しく使ったりする。		

## 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
<b>知識・技能</b>	○学習した漢字を積極的に用い、文字を正しく書いている。 ○文法的に誤りのない表記ができています。	・漢字テスト、ノート ・定期テスト 等
<b>思考・判断・表現</b>	○目的や場面に応じ、筋道立てて話し、的確に聞き取っている。 ○仲間の考えと自分の考えを比べながら、分かりやすく課題にせまる発言をしている。 ○相手や目的に応じて、筋道立てて適切に文章を書いている。 ○文章の主題をとらえ、自分の考えを豊かに表現している。 ○自分の考えが相手に伝わるように説得力のある文章を書いている。 ○文章中の表現に着目し、登場人物の言動の意味を的確で具体的にとらえている。 ○文章の趣旨や筆者の考え方を的確に理解している。 ○課題に対する自分の考えを分かりやすく構造的にまとめている。	・スピーチ、討論 ・発言内容 ・作文 ・ノート、学習プリント ・定期テスト

主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に挙手発言をし、交流の場面では、仲間の意見を受け入れたら繋げたりして、興味関心をもって学習に取り組むことができている。</li> <li>○学習内容を工夫してノートにまとめたり、ワーク等を計画的に進めたりして、自分の学習の跡をしっかりと残すことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート、プリント、ワーク</li> <li>・授業姿勢</li> <li>・定期テスト</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
---------------	---	--

#### 4 国語の学び方と学習に必要なもの

学習過程	学習を進める上での約束や大切なこと	必要なもの
3分前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科係で工夫した活動を行い、全員参加をする。</li> <li>〈例〉漢字ミニテスト、音読、まとめの交流など</li> </ul>	基本
課題確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の課題を作ったり確認したりする。※課題を赤で囲う。</li> <li>・ノート(学習プリント)に課題を丁寧に書く(1分)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> <li>・ノート</li> <li>・国語の学習(ワーク)</li> </ul>
音読 ひとり読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業で学習する部分を音読する。</li> <li>・課題についての自分の考えをもつ。</li> <li>“読みの視点”を参考に、着目できそうな言葉について               <ul style="list-style-type: none"> <li>①線を引く(課題に解決につながる言葉を取り出す)</li> <li>②取り去る(言葉を取り去って読む)</li> <li>③置き換える(似た言葉に置き換えて読む)</li> <li>④結び付ける(言葉と言葉、文と文を結び付けて読む)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字のとびら</li> <li>・筆記用具</li> </ul> <p>学校に置いておく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典、漢和辞典</li> <li>・国語便覧</li> </ul>
仲間読み (課題解決のための交流)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを仲間と交流する。その際、根拠を述べながらできるだけ具体的に話す。</li> <li>・発言者の考えを自分の読みと比較しながら聞く。</li> <li>・仲間の意見と比べながら、仲間の考えを大切に自分の考えを分かりやすく発言する。</li> <li>・課題に対する考えを深め合う。疑問(質問)を出し合ってもよい。</li> </ul>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について、深まった考えをまとめる。キーワードに線を引く。</li> <li>・まとめを交流し、まとめ直しをする。</li> </ul>	

#### 5 家庭学習の進め方

「国語」は、みなさんの生活の一部でもあり、生活の基本ともなるものです。そこで、毎日の生活記録を書いたり、新聞を読んだり、ニュースを聞いたり、あるいは仲間と会話をするだけでも「国語」として吸収できることや力を伸ばすことができます。日々の生活で「国語」を意識することが大切なのです。

さらに、次のようなことを例として、家庭学習をしてみましょう。

- ① 教科書を音読する。
  - ・小説や説明文は、次に学習する部分を中心に読みましょう。古文や詩は暗唱しましょう。
- ② 分からない漢字は何度も読んだり、書いたりして練習する。
  - ・難解語句についてはタブレットや辞典を使って、意味を調べましょう。

毎日の記録などに、調べたことを使ってみましょう。
- ③ 新しい教材に入る前には、国語の学習(ワーク)の「調べる」の部分に取り組む。
- ④ 学習したその日にノートやプリントに目を通し、まとめたことを確認する。
- ⑤ 授業で学習した部分については、テキスト(ワーク)を計画的に進める。
- ⑥ 定期テスト、実力テストで間違えた問題をやり直し、なぜ間違えたのか分析する。
- ⑦ 読書などを大切にする。(自分の感想をもつ。)

# 社 会 科

## 1 社会科を学ぶ目的

中学校の社会科には、歴史的分野、地理的分野、公民的分野の3つの分野があります。

地理的分野では、地形や気候の学習をベースにして、各地で生活する人々の営みを学びます。歴史的な分野では、先人の社会や生活の足跡を学びます。公民的分野では、政治や法律、経済などを理解し、世の中の中のしくみを学びます。

社会科を学ぶ目的は、物事を多面的・多角的に捉え、様々な立場から考えを深め、正しい判断をし、よりよく生きることができるようになることです。

そこで、社会科の授業で大切にしてほしいことは、多様な視点から「なぜそうなるのか。」「なぜ起こったのか。」「どのような特色があるのか。」などと考えることです。

地理的分野では「地形や気候の多様性から、人々が各地域でどのように産業や文化を発達させてきたのか」、歴史的な分野では「過去の事象についてなぜ起こったのか根拠をもとに考え、表現することができるか」などを評価します。公民的分野では、人権や法律、経済のしくみについて理解し、現在の社会生活と関連付けながら、多面的・多角的に考察し、課題について公正に判断したり、思考・判断したことを説明したり、議論したりしているかどうかを評価します。

市民としての教養や社会に対する見方・考え方を身につけ、正しい判断をし、国際社会に生きる民主的で平和的な「社会の形成者」となるために、社会科を学びましょう。

## 2 学習内容

1・2年生では歴史的な分野と地理的分野を学びます。3年生では、1・2年生で学習した内容を活かして歴史的な分野と公民的分野を学び、現代社会の政治や経済の仕組みについて詳しく学習していきます。

第1学年	第2学年	第3学年
<p><b>【地理的分野】</b>            1 編 世界と日本の姿            1 章 世界の姿            2 章 日本の姿            2 編 世界のさまざまな地域            1 章 世界各地の人々の生活と環境            2 章 世界の諸地域            ①アジア州            ②ヨーロッパ州            ③アフリカ州            ④北アメリカ州            ⑤南アメリカ州            ⑥オセアニア州            3 編 日本のさまざまな地域            1 章 地域調査の手法</p> <p><b>【歴史的な分野】</b>            1 章 歴史へのとびら            2 章 古代までの日本            ①世界の古代文明と宗教のおこり            ②日本列島の誕生と大陸の交流            ③古代国家の歩みと東アジア世界            3 章 中世の日本            ①武士の台頭と鎌倉幕府            ②ユーラシアの動きと武士の政治の展開</p>	<p><b>【地理的分野】</b>            2 章 日本の地域的特色と地域区分            3 章 日本の諸地域            ①九州地方            ②中国・四国地方            ③近畿地方            ④中部地方            ⑤関東地方            ⑥東北地方            ⑦北海道地方            4 章 地域の在り方</p> <p><b>【歴史的な分野】</b>            4 章 近世の日本            ①ヨーロッパ人との出会いと全国統一            ②江戸幕府の成立と対外政策            ③産業の発達と幕府政治の動き            5 章 開国と近代日本の歩み            ①欧米における近代化の進展            ②欧米の進出と日本の開国            ③明治維新            ④日清・日露戦争と近代産業</p>	<p><b>【歴史的な分野】</b>            6 章 二度の世界大戦と日本            ①第一次世界大戦と日本            ②大正デモクラシーの時代            ③世界恐慌と日本の中国侵略            ④第二次世界大戦と日本            7 章 現代の日本と私たち            ①戦後日本の出発            ②冷戦と日本の発展            ③新たな時代の日本と世界</p> <p><b>【公民的分野】</b>            1 章 現代社会と私たち            ①現代社会の特色と私たち            ②私たちの生活と文化            ③現代社会の見方や考え方            2 章 個人の尊重と日本国憲法            ①人権と日本国憲法            ②人権と共生社会            ③これからの人権保障            3 章 現代の民主政治と社会            ①現代の民主政治            ②国の政治の仕組み            ③地方自治と私たち            4 章 私たちの暮らしと経済            ①消費生活と市場経済            ②生産と労働            ③市場経済の仕組みと金融            ④財政と国民の福祉            ⑤これからの経済と社会            5 章 地球社会と私たち            ①国際社会の仕組み            ②さまざまな国際問題            ③これからの地球社会と日本            終章 よりよい社会をめざして</p>

### 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
知識技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から適切に読み取ることができ、資料と資料を関連付けることができている。</li> <li>グラフや表に表したりすることができている。</li> <li>社会的事象の意味や意義を理解することができている。</li> </ul>	期末テスト 単元テスト等
思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもつために必要となる資料を取捨選択することができている。</li> <li>様々な資料をもとにして、課題に対する適切な考えをもつことができている。</li> <li>仲間の考えから、自分の考えを深めることができている。</li> <li>1時間の学習を振り返り、自分の考えを適切な言葉を使ってまとめることができている。</li> </ul>	期末テスト 単元テスト 発言の内容 ノートの記述等
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会事象に関心をもち、課題を見出そうとすることができている。</li> <li>意欲的に資料を読み取り、自分の考えをもとうとすることができている。</li> <li>自分の考えを積極的に発言したり、仲間の考えを聞いたりして、考えを深めようとしていることができている。</li> </ul>	授業姿勢 ノートの記述 提出物等

### 4 学習に必要なもの

各分野の教科書、資料集、地図帳、ノート、各分野の復習に使うワーク・ノート

### 5 家庭学習の進め方

#### (1) 事象のつながりを意識した学習

社会科は、事象と理由をつなげて考えることがとても大切です。出来事の因果関係や関連を意識して学習しましょう。例えば、歴史なら学んだことを年表形式にまとめる、地理なら略地図に学んだことを書き込む、公民であれば法と社会情勢を結び付けてまとめるなどです。

#### 自主学习としてやるとよい内容

- 分野共通・・・太字が説明できるくらい丁寧に教科書を読み込む。学校のワークや、市販のテキストなどを解き、理解を深め、問題を解くことに慣れる。単元テストや授業で配られたプリントなどをもう一度解く。
- 歴史的分野・・・年表で事象や学習内容を整理し、歴史の流れ（前後関係、因果関係）を理解する。
- 地理的分野・・・気候・地形に関連した環境に応じた人々の生活の工夫を理解する。
- 公民的分野・・・ニュースや新聞記事の中で、学習した内容に関連したトピックをノートに記録し、用語などを調べ、自分の考えをまとめる。

#### (2) ワークを活用し、問題に慣れること

社会科ではワークを活用しています。授業で学んだことを確実に定着させるために、授業で学んだ範囲を必ずその日のうちにワークで確認しましょう。また、ワークを解くことで問題に慣れることもできるので、単元テストや定期テストの前には余裕をもって問題を解くようにしましょう。問題を解くコツや適切な答え方なども身に付けていきます。

#### (3) 間違えたところは確実に理解すること

大切な学習の仕方としては、テストやワークで間違えたところを直し、確実に身に付けることです。教科書や資料集などを使ってもう一度その内容について復習しましょう。日々の自主学习ノートを利用して復習していくとよいです。

# 数 学 科

## 1 数学科を学ぶ目的

これまで人間は、共通の単位を決めて、あらゆるものを数字に置き換えて生活してきました。距離や角度や面積といった目に見えるものだけでなく、時間や重さや温度といった目に見えないものまでも数字に置き換えて表現し、日常生活に利用しています。数学とは、あらゆるものを共通の単位と数字で表現し、ものごとを客観的に理解し説明することで、日常生活を便利にすることを目的とした教科です。

数学の問題を解くには、まずその問題が何を求めているのかを正しく理解する「理解力」が求められます。そして、次に必要な力が「発想力」や「応用力」です。答えは一つでも、その答えを導き出す方法は必ずしも一つとは限りません。問題を解く方法を複数思いついた時は、どの方法が効率よく解けるのかと考えます。このように数学の問題を解くことで「理解力」や「発想力」や「応用力」といった様々な能力を養うことができるのです。

## 2 学習内容

第1学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の世界のひろがり</li> <li>・文字と式</li> <li>・1次方程式</li> <li>・量の変化と比例、反比例</li> <li>・平面の図形</li> <li>・空間の図形</li> <li>・データの分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式と計算</li> <li>・連立方程式</li> <li>・1次関数</li> <li>・平行と合同</li> <li>・三角形と四角形</li> <li>・データの比較と箱ひげ図</li> <li>・確率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多項式</li> <li>・平方根</li> <li>・2次方程式</li> <li>・関数</li> <li>・相似と比</li> <li>・円</li> <li>・三平方の定理</li> <li>・標本調査</li> </ul>

## 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などの知識を身に付けている。</li> <li>・事象を数量、図形などで数学的に表現・処理するなどの方法を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言の内容</li> <li>・ノートの記事内容</li> <li>・学習した知識や技能を適切に理解している (授業中の練習や交流活動など)</li> <li>・単元テストや期末テストの「知識・技能」に関する問題 等</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学習した知識や技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に着けたり、論理的に考えたりすることができている。</li> <li>・根拠をもとに自分の考えをまとめることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言の内容</li> <li>・ノートの記事内容</li> <li>・これまでに学習した内容を活用して、ノートにまとめたり、発言したりしている。</li> <li>・単元テストや期末テストの「思考・判断・表現」に関する問題 等</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能の習得に向けて、粘り強く取り組み、試行錯誤を繰り返しながら、学習を進めることができている。</li> <li>・数学的な事象に関心をもつとともに、数学を生活や学習に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度や発言内容</li> <li>・交流活動での姿</li> <li>・レポート課題</li> <li>・授業の振り返りの内容や自己評価</li> <li>・ノートの提出、内容</li> <li>・ワークの提出、内容 等</li> </ul>



#### 4 数学の学び方

◎基礎的・基本的な知識・技能を習得すること、定着を図ることを重点におく授業		◎基礎的・基本的な知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育むことを重点におく授業	
学習過程	学習を進める上での大切なこと	学習過程	学習を進める上での大切なこと
知識や技能の習得	・今日身に付けたい知識や技能について習得する。	問題提示	・問題を読み、わかっていること、求めたいものをはっきりさせる。
課題提示	・授業の中でどんなことができるようになっていけばいいのか見通しをもつ。	課題づくり	・授業の中で考えたいことは何かをはっきりさせ、課題をつくる。
反復練習	・仲間の力を借りずに、自分の力でやってみる。 ・自分の力でできることとできないことをはっきりさせる。	個人追究	・既習内容などを駆使して粘り強く考え、自分の考えをまとめていく。 ・自分の考えを図や式や表などを利用してまとめていく。
教え合い	・自分の力でできないことについては仲間に教えてもらう。 ・自分の力でできたことについては仲間と教え合う。	意見交流	・自分の考えや根拠を明らかにして、筋道立てて話す。 ・いつでも使える方法、速くできる方法、よりよい方法を見つける。
まとめ	・学んだ数学的な知識や技能を自分の言葉でまとめる。	まとめ	・学んだ数学的な見方や考え方を自分の言葉でまとめる。
評価問題	・評価問題で学んだ数学的な知識・技能を確かめる。	評価問題	・評価問題で学んだ数学的な見方や考え方を確かめる。

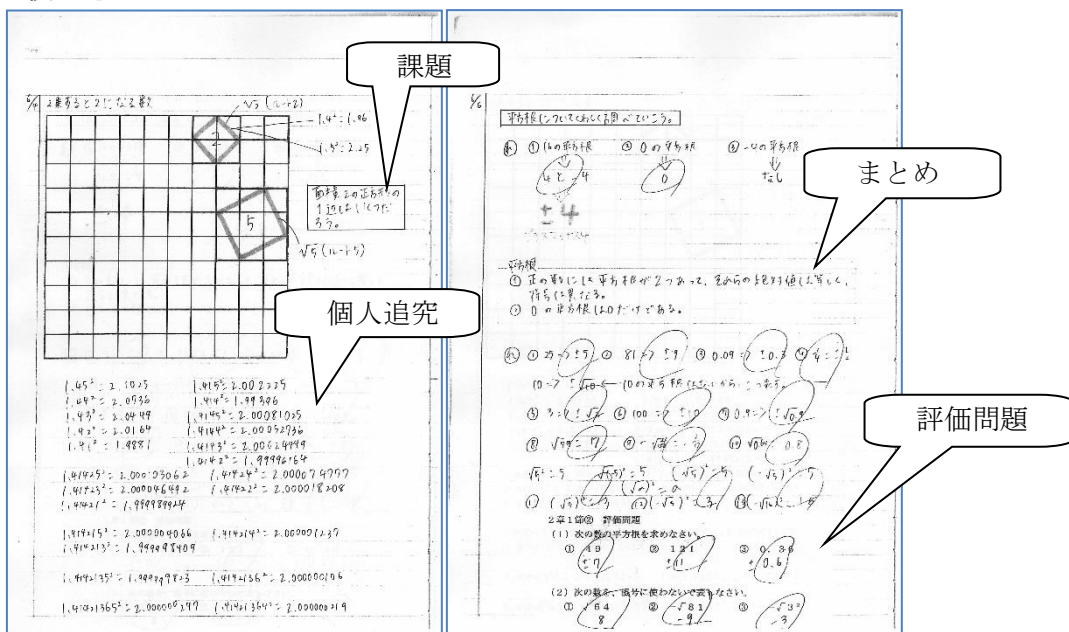
#### 5 学習に必要なもの

- ・教科書、ノート、ワーク（全ての単元）
- ・コンパス、分度器、三角定規（図形の単元）

#### 6 家庭学習の進め方

- ① ノートの余白に自主学習コーナーをつくり、授業で学習した問題をもう一度取り組む。
- ② ワークの問題の中で、授業で学習したことを使えば解ける問題を見つけて取り組む。
- ③ ワークやテストで間違えた問題をもう一度解き、苦手な部分を克服できるようにする。

#### <ノートの使い方>



# 理 科

## 1 理科を学ぶ目的

「花火は打ち上がったとき、あとから音が聞こえてくるのはなぜだろう?」「雲ってどうして空に浮かんでいるのだろうか?」私たちのまわりには、たくさんの不思議があります。しかし、その現象には必ず理由があります。「理科」という教科は、自然の様々なものや現象について調べ、未知な部分を解き明かしていく方法を学ぶ教科です。「なぜ」「どうして」と考えたことに対して「～じゃないか。」と仮説を立てて、今までに学習した知識・技能を活用し、適切な実験方法を選択して確かめることが理科の学習です。「なぜ?」を解決する中で理科の学び方を味わいましょう。そして、理科での学びを深めていきましょう。

## 2 学習内容

第1学年	第2学年	第3学年
①いろいろな生物とその共通点 (生命)	①生物の体のつくりとはたらき (生命)	①生命の連続性 (生命)
②活きている地球 (地球)	②地球の大気と天気の変化 (地球)	②宇宙を観る (地球)
③身のまわりの物質 (物質)	③化学変化と原子・分子 (物質)	③化学変化とイオン (物質)
④光・音・力による現象 (エネルギー)	④電気とその利用 (エネルギー)	④運動とエネルギー (エネルギー)
		⑤自然と人間 (環境)

## 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象についての基本的な考え方やきまりを理解し、知識を身につけることができている。</li> <li>観察・実験器具を適切に操作し、結果を正確に記録することができる。</li> <li>グラフやスケッチなどを用いて結果を的確に記録・整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察・実験の仕方(操作面・安全面)</li> <li>パフォーマンス(技能)テスト</li> <li>観察・実験レポート・授業ノートの結果の記録内容</li> <li>定期テスト、単元テスト、小テストの「知識・技能」の評価問題 等</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象から、疑問を見いだし目的意識をもって観察・実験を行うことができる。</li> <li>観察・実験結果を分析して解釈し、自分の考えを表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考察の場面での発言内容</li> <li>観察・実験レポート・授業ノートの考察の表現内容やプレゼンテーション能力</li> <li>定期テスト、単元テスト、小テスト「思考・判断・表現」の評価問題 等</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象に関心をもち、意欲的に探求することができる。</li> <li>学習したことを、日常生活で見られる事象と関連させて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挙手発言し話し合いに取り組む態度</li> <li>観察・実験に取り組む態度</li> <li>観察・実験レポート・授業ノートの感想の内容</li> <li>課題の提出状況 等</li> </ul>

## 4 理科の学び方

学習過程	学習を進める上での約束や大切なこと
課題把握	・自然の事物・現象に対して「なぜだろう？」という疑問をもちましょう。
予想	・これまで学習したことや生活経験をもとに、自分の考えをもちましょう。
観察・実験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の目的を理解し、自分の手で実験を行いましょう。</li> <li>・結果は、観察・実験と同時進行で、ノートやレポートに記録しましょう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【観察・実験中の約束】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験を行うときは、イスを机の中に入れ立って行きましょう。</li> <li>・机の上に置くのは、記録する用紙など必要なものだけにしましょう。</li> <li>・観察・実験が終了したら、机の上を雑巾できれいにふきましょう。</li> <li>・必要に応じて安全めがねを確実に着用しよう。</li> <li>・薬品の処理は、先生の指示を聞いて行きましょう。</li> </ul> </div>
結果の整理	・結果をグラフにまとめたり、見つけた事実を整理したりしましょう。
考察と交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験の結果をもとに、自分の考えを書きましょう。 例「～ということ（事実）から、・・・だと考えた。」</li> <li>・仲間の方を見ながら話しましょう。</li> <li>・実物を使ったり、黒板に書いたり、モデルで示して、多くの人に分かってもらえるように工夫しましょう。</li> <li>・「〇〇さんに付け足しで・・・」「〇〇さんと同じで・・・」「〇〇さんとは反対で・・・」など自分の立場をはっきりさせてから、そう考えた理由を話すとき聞かずに人に伝わりやすいです。</li> </ul>
まとめと感想	・課題に立ち返り、観察・実験を通して明らかになったことや自分の見方・考え方が変わったことをまとめます。

## 5 学習に必要なもの

- ① 教科書 ②ノート ③ワーク（ワークノート）

教科書・ノート以外の学習用具は4月になってから学校で購入します。

## 6 家庭学習の進め方

- (1) 授業で学習した内容を、教科書やノート、ワークなどを利用して復習しましょう。
- (2) 公式や用語は、ワークをつかって基本的な問題を解きながら確認するようにしましょう。  
ワークは単元や学期末ごとに提出があります。計画的に進めるようにしましょう。
- (3) 問題を解いていて分からないときは、途中でかまわないので教科書やノート等で調べましょう。
- (4) 一度解いて、分からなかったり、間違えたりした問題は印をつけておきましょう。そして、印をつけた問題は、時間をおいてもう一度解き、何も見ないで解けるように繰り返すことが大切です。

## 7 ノートの書き方の例

課題・予想など見出しをそろえる。日付を書く。

予想と考察は、自分の考えを書き、みんなの意見を加える。

余白をつくる。疑問やメモ、調べたことなどを書き込む。

結果は比べて詳しく書く。図や表は大きく書くとよい。タブレットでまとめても◎

まとめは、授業を通して変わった見方・考え方や日常生活に関連づけたことを書く。

# 音 楽 科

## 1 音楽科を学ぶ目的

音楽を一人で聴いて涙を流したことはありませんか。体育祭のBGMに思わず足が勝手に動き出すような気分かられたことはありませんか。音楽にはストレスの軽減や解消、心身をリラックスさせたり、意欲を高めたり、活力を増幅させたりする力があります。もし、前述の体育祭や映画、ドラマなどに音楽がなかったら、感動は得られないかもしれません。



中学生という多感な時期に、音楽が分かることの楽しさや仲間と共に合唱を創り上げることの喜びなどの感動体験を感得してほしいと思います。そして、生涯にわたって音楽に親しむことを通して、心豊かな人間の育成を目指します。



## 2 学習内容

学習	第1学年	第2学年	第3学年
歌唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫し、主に合唱で表現の仕方を学ぶ。</li> <li>1、2年生では三部合唱を、3年生では四部合唱を学びます。様々な行事における発表の場も多く、やりがいをもって取り組む。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢やブレス、自然で無理のない歌声</li> <li>リズムに乗った表現・旋律の役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声部の役割</li> <li>全体の響き</li> <li>発声や言葉の特性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>混声四部合唱の豊かな響き</li> <li>歌詞の内容や旋律の流れ</li> <li>声部の役割と全体の響きとの関わり</li> </ul>
器楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を通し、各学年末に講師の先生をお招きし、箏の奏法や日本の伝統芸術を学ぶ。</li> <li>また、アルトリコーダー奏法を学び、アンサンブルに取り組む。</li> </ul>		
創作	<ul style="list-style-type: none"> <li>手拍子、膝・肘・足踏みなど身体の各部位を使ってリズムアンサンブルを作るボディー・パーカッションの創作、基本的な楽典の定着からキーボードなどを使って、リズムや旋律など音楽を形づくっている要素を知覚し、数小節の作曲をし、発表まで取り組む。</li> </ul>		
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>管弦楽、独奏曲、独唱・合唱曲、ピアノ・パイプオルガンなど、洋楽に限らず、日本の伝統的な音楽や、世界の民族音楽などをCDやDVDで鑑賞する。また、各学年末に講師の先生による箏と尺八の生の演奏を鑑賞する。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージをもたらす音楽</li> <li>詩の内容と曲想の変化の関わり</li> <li>日本の伝統音楽に親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲のしぐみに注目する</li> <li>オペラに親しむ</li> <li>日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽に親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲のよさを伝える</li> <li>背景となる文化、歴史に注目する</li> <li>社会における音楽の役割を知る</li> </ul>

### 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作等で表している。</li> <li>・ 発声や楽器の扱い、基礎的な奏法、読譜力などを身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発言の内容</li> <li>・ 実技（歌唱・演奏）表現</li> <li>・ 実技テスト</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技（歌唱・演奏）表現</li> <li>・ 発言の内容</li> <li>・ 活動時の観察</li> <li>・ 学習プリントの内容</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもっている。</li> <li>・ 歌唱や楽器での技能の向上を求め、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業姿勢（聞く姿・集中力）</li> <li>・ 挙手の回数、発言の内容</li> <li>・ 提出物等の取り組み</li> <li>・ 実技への取り組み姿勢</li> <li>・ 活動時の観察</li> <li>・ 実技（歌唱・演奏）表現</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

### 4 音楽の学び方

過程	学習内容	主な学習活動
導入	前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回までの復習をする。</li> <li>・ 発声練習曲などで口の開き、口形など意識・確認し、十分な発声練習をする。</li> </ul>
展開	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の練習課題をグループ別に話し合い、確認する。</li> <li>・ 具体的な練習方法や注目するポイントを確認する。</li> <li>・ 教師からの助言を受ける。</li> </ul>
	課題追求	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽の特徴や感じたことを、音楽的諸要素に絡めながら鑑賞する。</li> <li>・ リーダーの指示で各々リズムの確認や課題等の練習をする。</li> <li>・ 難しい部分・問題点の確認をする。</li> <li>・ 問題克服のポイントや方法を話し合う。</li> </ul>
まとめ	全体交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えたことを仲間に伝える。その際、仲間の意見と比べながら、仲間の考えを大切に聞く。</li> <li>・ パート・班ごとに発表して問題点を共有し、次回に練習したいこと、次回の学習の見通しをもつことを確認する。</li> <li>・ 課題が達成できているか確認する。</li> <li>・ 本時での練習で頑張ったこと、できるようになったことを発表し、仲間のよさを見つけ合う。</li> </ul>

### 5 学習に必要なもの

- ①教科書 ②ファイル（学校でまとめて注文します） ③筆記用具  
④合唱曲集（新入生は学校でまとめて注文します）

### 6 家庭学習の進め方

機会があれば、音楽会やコンサートなどに出かけ、実際の演奏に触れてみましょう。

さまざまな音楽を聴き、日本や世界の国々の音楽作品に興味をもち、その魅力を味わいましょう。

# 美術科

## 1 美術科を学ぶ目的

「美術」というと絵画や彫刻を想像する人が多いと思います。しかし、「美術」とは、デザイン、工芸、写真、映像など、色や形を使うさまざまな活動といえます。私たちの身のまわりには、色や形がないものはほとんどありません。つまり、私たちは生活の中で知らず知らずのうちに「美術」と深く関わっています。

何もないところから想像し、表現することは簡単なことではありませんが、できたときの喜びや感動はつくり手である自分自身が一番よく分かるはずです。五感で味わってきたことを色や形に置き換え、メッセージ性のある「語りかける作品」を制作しましょう。1年生では自分自身のことをよく知ることを大切に、2年生では生活とのつながりを意識して情報を受け取ったり発信したりすることを大切にするとともに、3年生では社会とのつながりを意識して、様々な問題を提起したり解決したりすることを大切にしましょう。

## 2 学習内容

美術科の授業は1年生が週1～2時間、2年生と3年生は週1時間行われます。表現の分野である絵画、彫刻、デザイン、工芸に加え、鑑賞の分野を学習します。1時間の限られた時間の中で準備、制作、片付けをしなければならないので、時間を意識して活動しましょう。

学習		第1学年	第2学年	第3学年
表 現	絵画	・はきなれた靴を描こう		・心の世界を描く
	彫刻		・木彫コースター	・てん刻
	デザイン	・文字のデザイン ・いろいろな技法での色面構成	・ポスター ・立体感のある平面構成	・心の世界を描く
	工芸	・ゴム印を使ったてん刻	・木彫コースター	
鑑賞		日本や世界の作品鑑賞、自分や仲間の作品鑑賞		

## 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形、色、材料、光、などが感情にもたらす効果などを理解できている。</li> <li>・作品を美しく構成し、作品のテーマを美しい形、色、材料、光で表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品（描写力、彩色、表現方法等）</li> <li>・材料や用具の使い方</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想力豊かにイメージを浮かべている。</li> <li>・バランスよく画面全体を構成したり課題解決に向けて追究したりしている。</li> <li>・アイデアスケッチや試作をよりよいものにしようと粘り強く考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチや試作</li> <li>・学習プリントの記述内容</li> <li>・主題を意識した制作</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示資料や課題に対して、自分の感じたことや思ったことを発言したり、プリントにまとめたりしている。</li> <li>・粘り強く集中して制作に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での制作姿勢、態度などの様子</li> <li>・学習プリントの記述内容及び提出状況</li> <li>・課題意識</li> <li>・持ち物</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

#### 4 美術科の学び方

題材を知り、題材を貫く主題を生み出す授業		主題をもとに課題を意識して追究する授業	
学習過程	学習を進めるうえでの大切なこと	学習過程	学習を進めるうえでの大切なこと
技法・知識の習得	本題材に必要な技法や美術科の基礎知識を身に付ける。	資料提示	資料をもとに本時の制作の見通しをもつ。
資料提示	本題材のテーマや制作するものを知り、見通しをもつ。	課題化	資料をもとに課題を考える。
課題化	技法・知識の習得を生かして、テーマをもとに自分の主題を考える。	制作	課題を達成するための構想を練ったり、習得したことをもとに制作したりする。
構想を練る	課題に沿って、自分の思いを文やアイデアスケッチで表現する。	交流	仲間の表現方法を知って、自分の制作に生かす。
主題決定	アイデアスケッチを完成させ、題材を貫く主題を決定する。	制作	さらに自分の制作を追究する。
片付け 振り返り	課題に対する達成度を振り返る。	片付け 振り返り	課題に対する達成度を振り返る。

#### 5 学習に必要なもの

①教科書 ②資料集 ③筆記用具（鉛筆を含む）④それ以外の用具（定規、のり、彫刻刀、新聞紙など。事前に教科係を通して連絡します。）⑤デザインセット（ポスターカラー※水彩絵の具は不可）

毎回の授業では①と③を持参すること。②は4月当初に学校で一斉購入します。購入後は美術室で保管します。⑤は1学期中に学校で希望者へ販売します。詳細は販売間近になったらお知らせします。（購入後に学習用具は必ず記名をしてください。）

#### 6 家庭学習の進め方

家族や友人と美術館等に出かけ、優れた美術作品を鑑賞すると感性が磨かれ、作品づくりの発想がしやすくなります。家庭学習では制作のアイデアを考えたり、資料や道具を事前に準備したりしましょう。個人的な持ち物の貸し借りはしません。

#### <主な作品例>

1年「文字のデザイン」



2年「木彫コースター」



3年  
「心の世界」



# 保健体育科

## 1 保健体育を学ぶ目的

本来、私たちは運動をしたいという欲求をもっています。例えば、速く走れるようになる、高く跳べるようになる、バスケットボールでシュート率を上げる、バレーボールのスパイクが打てるようになるなど、できなかった技ができるようになったり、これまでよりも上手くなったりすると運動がもっと楽しくなります。また、どうやったら試合で相手チームに勝てるかをグループの仲間と作戦を立ててゲームをしたり、集団行動やマット運動などの発表会で、仲間と練り合ってよりよい演技を創り上げたりしたときに、大きな充実感があります。

このような運動の楽しさや充実感を得るために、様々な種目の技能を向上させることと、励まし合いや教え合いなどの仲間との関わりを通して、集団の高まりを目指すことが保健体育科の学習です。

## 2 学習内容

### 令和6年度 輪之内中学校 保健体育科 年間指導計画

学期	月	週	第1学年		第2学年		第3学年				
			男女合同		男女合同		男女合同				
前期	4月	1	体つくり 運動 (7)	保健 (6)	体つくり 運動 (7)	保健 (8)	体つくり 運動 (7)	保健 (5)			
		2									
		3									
	5月	4	短距離 リレー (8)								
		5									
		6									
	6月	7	バレー ボール (12)		体育理論 (3)		バレー ボール (12)		体育理論 (3)	バレー ボール (12)	体育理論 (3)
		8									
		9									
	7月	10	水泳 (7)								
		11									
	後期	9月	12		保健 (10)		水泳 (7)		保健 (8)	水泳 (7)	保健 (8)
13											
14											
10月		15	マット 運動 (12)	バドミントン (12)		ダンス (12)					
		16									
		17									
11月		18	ソフト ボール (14)	跳び箱 (10)		ソフト ボール (15)					
		19									
		20									
12月		21	長距離 走 (8)	長距離 走 (8)		長距離 走 (8)					
		22									
		23									
1月	24	走り 高跳び (10)	バスケット ボール (12)	バスケット ボール (12)							
	25										
	26										
2月	27	剣道 (8)	ダンス (10)	サッカー (9)							
	28										
	29										
3月	30										
	31										
	32										
	33										
	34										
	35										
	36										



### 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
運動・健康についての知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より正確に大きな動きができています。</li> <li>・記録の向上を図ることができています。</li> <li>・相手に伝わる表現ができています。</li> <li>・補助や審判が正確にできています。</li> <li>・運動の行い方や上達の過程を理解している。</li> <li>・学習の進め方を理解している。</li> <li>・保健の内容を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の向上（記録、上達度）</li> <li>・授業中の姿（フォーム、ゲーム中の姿）</li> <li>・種目ルールを理解</li> <li>・保健体育ノートの内容</li> <li>・期末テスト 等</li> </ul>
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題について、練習方法や作戦を立て、解決の仕方や気づいたことを自分の言葉で仲間に伝えることができています。</li> <li>・安全留意して活動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動や健康への見方、考え方</li> <li>・練習方法の選択</li> <li>・学習ノートの記述内容</li> <li>・アドバイスの内容 等</li> </ul>
運動・健康への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器具の準備や片付けをはじめ、進んで授業に取り組んでいる。</li> <li>・グループの仲間と協力し、技能向上を目指し繰り返し練習している。</li> <li>・学んだことをきちんと整理しまとめて記入することができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物、見学状況</li> <li>・練習に取り組む様子</li> <li>・役割を果たす姿</li> <li>・授業中の仲間への声かけ 等</li> </ul>

### 4 保健体育科の学び方

学習過程	学習内容	約束や大切なこと
計画	準備 準備体操 計画会 (全体・グループ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ（係）で協力して準備を素早く安全にしよう。</li> <li>・種目に応じた補強運動をしよう。</li> <li>・全体の課題とその姿になるための技術ポイントを理解しよう。</li> <li>・自分やグループの今の姿を把握し、目指す姿を理解しよう。</li> <li>・自分やグループの練習方法や練習の場を決めよう。</li> </ul>
展開	前半練習・ゲーム 計画会 後半練習 ゲーム・記録会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーの指示でまとまって練習しよう。</li> <li>・課題や技術ポイントを意識して何回も練習しよう。</li> <li>・前半練習やゲームの反省から後半の課題を明らかにしよう。</li> <li>・グループやペアで姿を見合い、進んでアドバイスしよう。</li> <li>・練習や成果を発揮し記録を伸ばそう。</li> </ul>
評価	反省会 (グループ・全体) 後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ課題、個人課題について評価し合い伸びを確かめよう。</li> <li>・次時の課題をはっきりさせよう。</li> <li>・グループで協力して後片付けをしよう。</li> </ul>

#### 【役割と活動内容】

L（リーダー）	・・・全体会の司会、係活動を見届ける。
PO（技能観察者）	・・・技能についてアドバイスする。採点などの評価の中心となる。
MO（態度観察者）	・・・集団を向上させるための決まりを考え、守るように働きかける。
器具係	・・・準備、片付け及びその指示を出す。
ゼッケン係	・・・ゼッケンの準備片付け、整頓等を行う。
記録ファイル係	・・・学習カード、ファイルの管理をする。
体操係	・・・体操ストレッチの指示とリードをする。

#### 【集団性の発達】

所属	・・・一人ひとりがばらばらで班のまとまりがない。
同調	・・・リーダーの指示に従ってそろって行動ができる。
協力	・・・進んで教え合いや励まし合いができ、グループの活動が活発である。
連帯	・・・お互いに課題を要求し合い、その要求に応え合うことができる。

### 5 学習に必要なもの

- 3年間使用するもの …新しい保健体育（教科書 東京書籍）、ファイル
  - 学年ごと、授業ごとに使用する物 …保健学習ノート（学校で購入）、学習カード
- ※見学する場合は、生活の記録（じぶんログ）に見学の理由を保護者に記入してもらい教科担任に提出すること。

# 技術・家庭科

## 1 技術・家庭科を学ぶ目的

「将来はこんな職業に就きたい」また、「こんな生活を送りたい」と様々な夢や憧れをもっていると思います。多様化し、複雑化する現代社会を生きていくためには、経済面・生活面・精神面で自立していく必要があります。その生活面で自立をする基盤づくりをするのが技術・家庭科の学習です。

日々大きく変化する生活環境や社会に対応していくためには、生活に必要な基本的な知識や技能を身に付けなければなりません。木工・電気・栽培・コンピュータ・裁縫・調理・保育など、家庭生活の中で様々な問題に直面したとき、学んだことを活かし、解決方法を考え、実践していく力を身に付けていきましょう。より心豊かな生活を送るために視・聴・嗅・味・触の五感を敏感にして学習や実習にチャレンジしていきましょう。



## 2 学習内容

技術・家庭科は、学習領域が大きく「技術分野」と「家庭分野」に分かれています。1・2年生はそれぞれ1週間に1時間ずつ、3年生は隔週で技術と家庭の授業を行います。様々な学習をもとに作品の設計図や調理計画を立て、実習を行いながら学習を進めていきます。

### <技術分野>

内容	学習内容	備考
A 材料と加工に関する技術 (主に1年生)	現在使用されている技術について 材料の特徴と加工方法について 製作品の設計・製作について 等	木材を使用し、身近で使える製品を設計し、製作する
B 生物育成に関する技術 (主に2年生)	生物の生育環境と育成技術について 生物育成の技術を利用した栽培について 等	プランターによる食物の栽培を行う
C エネルギー変換に関する技術 (主に2年生)	エネルギーの変換・利用と保守点検について エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作について 等	ソーラー充電LEDライトを製作する
D 情報に関する技術 (主に3年生)	情報通信ネットワークと情報モラルについて デジタル作品の設計・製作について プログラムによる計測・制御について 等	計測・制御に関するプログラミングや双方向性のあるコンテンツのプログラミングを行う

### <家庭分野>

内容	学習内容	備考
A 家族・家庭と子どもの成長 (主に2、3年生)	自分の成長と家族について 家族と家庭関係について 幼児の生活と家族について 等	幼児の心身の発達を自分の成長を振り返りながら学ぶ
B 食生活と自立 (主に1年生)	中学生の食生活と栄養について 日常食の献立と食品の選び方について 日常食の調理と地域の食文化について 等	食品や栄養素の特性を活かした、野菜、魚、肉の調理を実習する
B 衣生活・住生活と自立 (主に2年生)	衣服の選択と手入れについて 住居の機能と住まい方について 衣生活・住生活の工夫について 等	基本的な縫い方を練習し、生活に役立つものを布で製作する
C 身近な消費生活と環境 (主に3年生)	家庭生活と消費について 家庭生活と環境について 等	家庭や自分の生活を見直し、生活や環境に配慮した消費を考える

### 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
生活や技術についての知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活と技術との関係を理解し、生活に必要な知識を身につけることができている。</li> <li>製作や実習を計画的・合理的に進め、よりよい作品に仕上げたり、実習したりすることができる。</li> <li>道具を安全に正しく使うことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言の内容</li> <li>実習中の様子、道具の使い方</li> <li>期末テスト</li> <li>プリント、ノートの記述内容</li> <li>実技テスト</li> <li>作品の完成度</li> </ul> 等
知識や技術を用いて生活を工夫し問題を解決する思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作や実習において、自分の思いや意図をいかにし、設計図や実習計画を立てることができている。</li> <li>自分の生活や身のまわりの技術を見直し、課題を見つけ、その解決のために工夫することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動中の様子、工夫する姿勢</li> <li>設計図や実習計画の内容</li> <li>プリントやノートの記述内容</li> <li>生活や技術への見方、考え方</li> </ul> 等
主体的に生活や技術の学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や技術について関心を持ち、進んで実践することができている。</li> <li>課題解決に向けて粘り強く取り組んでいる。</li> <li>学んだことをきちんと整理しまとめて記入することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業姿勢 (聴く姿・作業する姿・学習する姿)</li> <li>発言への意欲</li> <li>プリントやノートの記述内容</li> </ul> 等

### 4 技術・家庭科の学び方

学習過程	学習を進める上で大切なこと
課題把握	日常生活や資料から単元のねらいや課題をつかみ、自分の生活を見つめ直す。
計画・考案	個々の課題や願いに向けて、何を、どのようにしたらよいかを具体的に考え、計画する。
製作・実習 (前半の活動)	活動の要点を理解し、調べ学習や、実習で試してみる。実習を行うときは、道具を安全に正しく使用する。
中間交流会 (深める)	自分の願いを達成できるように、自分の考えを仲間に伝えたり、仲間の意見を参考にしたりして、互いのよさを認め合う。
製作・実習 (後半の活動)	交流で深めたことをもとにして、やり直しや製作をする。また、技能の習熟を図る。
まとめ・交流会	活動で分かったことや課題をまとめ、学習を確かなものにして次の取り組みにつなげる。
日常生活への応用	学んだことを日常生活で活用できるように実践する。

### 5 学習に必要なもの

- ①教科書 ②筆記用具（鉛筆を含む） ③ファイルまたはノート ④エプロン・マスク・三角巾  
⑤上下青ジャージ
- ①②③は毎回の授業で必ず持ってきてください。ファイルを使用するときは一斉に購入します。  
④は家庭科の調理実習の際に使用します。こちらは各自準備をお願いします。  
⑤は技術の1,2年生で学習する『製作品の設計・製作』の時に使用します。
- 技術と家庭科で若干持ち物が異なります。教科担任の指示に従って準備してください。

### 6 家庭学習の進め方

技術・家庭科の家庭学習は大きく3つあります。①日常生活の中から疑問を探す。②授業で学習した内容を日常生活の問題を解決するために役立てる。③設計・実習計画を立てる前はアイデアをもって授業に臨む。①②③のことを大切にして、楽しく技術・家庭科の学習を進めていきましょう。

# 英 語 科

## 1 英語科を学ぶ目的

世界には200近くの国々があると言われています。その中で英語を母語や公用語として使用する国は、58の国と21の地域（約40%）です。現在人口は約80億人になり、そのうち英語を話す人は約21億人だと言われています。このように英語は地域的に最も広範囲に使用されて、経済をはじめ文化にも影響力がある言語といえます。英語の学習を通して、英語という言葉を理解するだけでなく、将来世界の人々とコミュニケーションを図り、互いの文化を理解し合えるようになることを願っています。

## 2 学習内容

1週間に英語の授業は4時間あります。教科書を使って内容理解をしたり、文法の学習をしたりします。それだけでなく、学習したことをもとに、以下の学習内容について、スピーチ、ディベート、ライティング等の活動を通して、気持ちや考えを伝え合えあう学習をします。

第1学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベット、あいさつ</li> <li>・自己紹介</li> <li>・身近な人の紹介</li> <li>・あこがれの人の紹介</li> <li>・手紙の書き方</li> <li>・1年の思い出</li> <li>・町紹介</li> </ul> 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行の楽しさと海外の文化</li> <li>・食文化の歴史と変化</li> <li>・将来像や夢について</li> <li>・日米の生活習慣のちがひ</li> <li>・誰もが暮らしやすい社会</li> <li>・調査と発表の効果的なやり方</li> <li>・世界遺産</li> <li>・人物の伝記</li> </ul> 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者スポーツ</li> <li>・気持ちを伝える手紙</li> <li>・日本の伝統文化</li> <li>・絶滅のおそれのある動物</li> <li>・防災時の外国人支援</li> <li>・平和と人権</li> <li>・国際社会の一員として</li> </ul>
<b>【文法】</b> be 動詞や一般動詞の現在形、過去形、現在・過去進行形、疑問詞など	<b>【文法】</b> 未来表現、比較表現、接続詞、不定詞、動名詞、受け身など	<b>【文法】</b> 現在完了形、現在完了進行形、後置修飾、関係代名詞、仮定法など

## 3 目指す姿と評価方法

評価の観点	観点ごとの目指す姿	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</li> <li>・実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題についての内容について捉えたり、考えや気持ちなどを伝え合ったりする技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーテストでの知識・技能問題</li> <li>・単語、基本文テスト</li> <li>・ワークシートの練習問題</li> <li>・対話活動での話す姿や内容</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について内容を捉えたり、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの記述</li> <li>・対話活動での話す姿や内容</li> <li>・ペーパーテスト等での思考・判断・表現問題</li> <li>・パフォーマンステスト</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に英語で聞いたり、読んだり、伝え合ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの振り返りの内容</li> <li>・目的や状況を理解して活動に取り組んでいる（読む、聞く、書く、話す）</li> <li>・間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションを図る姿</li> </ul>

#### 4 英語の学び方

教科書の題材を理解し、表現に結びつける授業		実践的コミュニケーションを図る授業	
学習過程	学習を進める上での大切なこと	学習過程	学習を進める上での大切なこと
課題理解	本時の学習で何ができればよいのかを理解する。	課題理解	本時の学習で何ができればよいのかを理解する。
新文型の理解	本時の基本文型を理解し、練習する。	前半の活動	目指す姿に向けて個人で練習する。
新出単語練習	単語の意味、発音、つづりを覚えるために大きな声を出して読む。	中間交流	よい点やアドバイスを交流し、自分に生かす。
内容把握	読み取りや聞き取りの観点に沿って本文の内容を理解する。	後半の活動	交流会でもった課題に向けて、ポイントを絞り練習する。
音読練習	大きな声で本文の音読をする。	交流会	互いの練習の成果を発表し合い、仲間のよさを見つける。
表現活動	課題に対して、自分の考えを積極的に発言する。	振り返り	本時の課題に対する達成度を振り返る。
振り返り	本時の課題に対する達成度を振り返る。		

#### 5 学習に必要なもの

- ① 教科書 ② ニュースタディノート (前後期各一冊) ③ ワーク ④ ファイル  
教科書は4月になってから学校で購入・配付します。

#### 6 家庭学習の進め方

- 予習では、単語の意味調べをしたり教科書の文を写したりして、次の時間の見通しをもつ。
- 復習では、学習したことを繰り返したり、応用したりして理解を深める。  
\* 何度も声を出して、教科書の文を覚えられるようになるまで音読する。  
\* ノートに、その単元で学んだ基本文の単語を変えて、オリジナル文を作ってみる。  
\* 単語や文型を理解するために、何度も書いて覚える。

<ノートの書き方の例>

**新しく学習する単語**

新出語句	品詞・意味など	新出語句	品詞・意味など
voice	名 声	trainer	名 トレーナー
once	副 以前(回)、かつ(回)	God	名 神
proud	形 誇りに思ふ	motto	名 モットー
brightness	名 明るさ	sadness	名 悲しみ
through	副 (時間・手段) 一とおり、 通	field	名 野原、畑

be proud of ...を誇りに思ふ

私は私の両親を誇りに思っています。  
I am proud of my parents. Try to be

(2) 動物に優しくしようとなつて下さい。  
Try to be kind to animals. **不定詞**  
心掛けたらいい、心掛けたらいい。

(3) 水はわたしたちのためだけにありのではありません。  
The water is not just for you.

the only one: 唯一の人、特別な人

like that: そのやり方 ⇒ 動詞の意味も  
同様に、類似の もつていい

voice voice voice voice voice voice voice voice

once once once once once once once once

**ONE POINT**

- I think (that) baseball is interesting.
- I know (that) Jane is from Canada.  
know (that) ... 「何かが知っている」  
(わたしは「モーン」が「カナダ」出身だということを知っています。)
- We hope (that) you will come to Japan soon.  
hope (that) ... 「何かがあることを望む」

② 時を表す関係詞 when

When you are busy, I will help you.  
(あなたが忙しい時は、わたしが手伝います。)

意味: when は「... (の) 時」の時の意味を表す。  
文の形: <when + 主語 + 動詞 > 本文の付く前に置き、  
when ... の終句にコンマをつける。  
when ... は文の後半に置くこともできるが、その場合はコンマを不要。  
例) When you are busy, I will help you.  
時を表す文 主語が後置  
= I will help you when you are busy.  
コンマを不要 時を表す文

**POINT** ... When ... の中の動詞は、動詞のことも現在形が表す。  
例) Please call me when you have time tomorrow.  
主語が後置  
(明日あなたが時間があるとき、わたしに電話してください。)

When ... の表す時が過去の場合、動詞は過去形を用いる。

板書・単語練習

教科書本文の視写